

# 三月会 参考資料

平成 29 年 12 月 18 日  
文責：坂本、田中、松橋

## <平成 30 年度一橋大学一橋山岳部 運営会名簿>

主将	坂本 (3 年)
副将	安藤 (3 年)
会計	吉田 (2 年)
記録	田中 (2 年)
総務	松橋 (2 年)
装備	三宅 (1 年)
書記	川原 (1 年)

以上 7 名になります。1 年間よろしくお願ひ致します。

## <部会講習について>

今年度の佐藤さんの月 1 回講習、部員の登山研修や単発講習会などで得た知識をもとに、来年度は部員間での知識の伝達を積極的に行ってまいります。その中でも佐藤さんからのご教授が必要と思われる項目に関しては、引き続きのご協力をお願いしたいと考えております。具体的には、9 月第 4 週の「ロープワーク・ザック搬送」、12 月第 1 週の「一橋大学山岳部の歴史」などを想定しております。以下は講習の年間計画ですが、部会での承認を得ておらず、暫定版となっておりますことをご了承ください。

- |          |                                    |
|----------|------------------------------------|
| 5 月 1 週目 | 装備・マナー・山用語                         |
|          | ①山に登るとは、縦走登山とは                     |
|          | ②服装、個人装備、団体装備の一覧および使用方法 (資料 1 を使用) |
|          | ③パッキングの仕方 (資料 1 を使用)               |
|          | ④山でのマナーおよびルール                      |
|          | ⑤山用語について (統一学習資料を使用)               |
| 2        | 計画書、テント設営、歩行技術                     |
|          | ①計画書の書き方                           |
|          | ②計画書の提出先                           |
|          | ③各係の仕事説明                           |
|          | ④テント設営の説明と実践                       |
|          | ⑤歩行技術 (資料 1 を使用)                   |
| 3        | 天気 (春) (外部講習資料を使用)                 |

- ①春山の天気のおくみ
- ②残雪について
- ③梅雨について
- ④春の山の観天望気
- 4 読図① (昨年度の外部講習資料の使用)
- ①コンパスの使い方
- ②地図の読み方
- ③むかで地図の作成
- 6月 1 週目 救急 (昨年度の佐藤さんの講習資料の使用)
- ①危急時対応について
- ②各傷病における応急処置の仕方 (統一学習資料を併せて使用)
- ③救急セットの中身と使用方法
- 2 食事
- ①山食とは
- ②食糧計画・カロリー計算の仕方
- ③新たな山食の考案
- 3 天気図① (統一学習資料を使用)
- ①天気図の読み方
- ②天気図の書き方
- ③天気図作成
- 4 天気図②
- ①天気図の作成
- 7月 1 週目 天気 (夏) (外部講習資料の使用)
- ①夏の天気のおくみ
- ②台風について
- ③夏の山の観天望気
- 2 読図②
- ①断面図の作成
- ②概念図の作成
- 9月 4 週目 ロープワーク、ザック搬送 (昨年度佐藤さんの講習資料の使用)
- ①ロープワークの仕方
- ②ザック搬送の方法
- 10月 1 週目 山脈①
- ①関東の山の紹介
- ②アルプスの山の紹介
- ③その他百名山の紹介
- 2 山脈②

- ①山行計画コンテスト
- 3 天気（秋）（外部講習資料の使用）
  - ①秋の天気のお楽しみ
  - ②秋山の観天望気
- 11月1週目 地形#資料未定
  - ①特有な地質と地形とその歴史
- 2 植生#資料未定
  - ①関東地方およびアルプスに特有な植生および生物
- 3 天気（冬）（外部講習資料の使用）
  - ①冬の天気のお楽しみ
  - ②冬山の観天望気
- 12月1週目 一橋大学山岳部の歴史（昨年度の佐藤さんの資料使用）
  - ①日本山岳会の歴史
  - ②一橋山岳部の歴史

参考資料1：山田哲哉「登山技術全書②縦走登山」山と溪谷社

その他参考資料：統一学習資料、昨年度の佐藤さんの講習資料、その他外部講習資料

#### ＜山行年間計画について＞

基本方針は今年度通りで、月2回ほど定期山行を実施し、そのうち最低1回の参加を義務付けます。夏合宿ですが、今年度同様レベルを分けて実施する予定です。

①1年生が参加できるレベルの合宿・・・立山、大日岳（2泊3日）

②上級生中心の合宿・・・南アルプス南部縦走（4泊以上）

塩見岳・荒川岳・赤石岳・聖岳・光岳らの登頂を目指す。

これに加えて中長期的な部の成長を図るため、偵察山行（③）を実施予定です。2年後、3年後により多くの部員が参加できる夏合宿として実施できるよう、部員の中でルート踏破者を育成することを目的とします。本年は槍ヶ岳から西鎌尾根を通過して新穂高温泉に抜けるルートを実施予定で、将来的な槍ヶ岳を含む縦走合宿を見据えてこれを行います。

その他の定期山行については現在調整中です。

### <雪溪訓練について>

今年度は5月14日、天神平にて雪溪訓練を実施し、部員8名（4年1名、2年4名、1年3名）がOB宮武さん、佐藤（周）さんからご教授いただきました。来年度も実施する方向ですが、訓練内容と参加対象者については部内で再検討したいと考えております。来年度に向けた検討点は以下のようになります。

『』は内海前主将執筆の訓練記録から抜粋。

#### 1. 訓練の実施目的について

『この訓練は、夏山の雪溪歩きを念頭に置き全員が参加するものとして設定していたが、訓練実施場所が雪のある場所であることから、親から雪山への入山を禁じられている多くの部員が参加しなかった。また訓練の内容も、冬山にも取り組むメンバーにとっては全て必要なものであったが、雪山には登らない部員にとっては不要なメニュー（ピッケルを用いた滑落停止、アンザイレンなど）もあったという声が上がっていた。』

ピッケルを用いた訓練は冬山シーズン前に雪上訓練として、雪山メンバーを対象として行うべきではないか、という意見もあった。

#### 2. 参加対象者について

原則全員参加としながらも、様々な理由から総部員の3分の1程度の参加にとどまった。1年生については参加させるべきかという声もある。今年度は上記の目的に加えて、新入部員が雪山に興味を持ってもらう機会を設定するという側面もあり、実際本訓練でイメージができたという声も聞かれた。一方で入部したての1年生に雪溪訓練を行うのは危険を伴うため避けた方がよいという意見も聞かれる。アイゼンを履いて歩く程度の訓練であれば、夏山訓練の一環として参加対象を広げることができるか？

#### 3. 費用面について

『費用対効果についても一部の部員から疑問の声が上がっていた。確かに、用具のレンタル（ヘルメット、ピッケル（部のもものでは本数が足りなかった）、持っていない人はアイゼン）や交通費で計12000～14000円ほどのお金がかかっている。また、ロープワークやツェルトの使い方などは部室前でも練習することが可能である。わざわざお金をかけて雪のある場所に行くなら、雪山に取り組むメンバーだけで雪山に関するメニューだけを行うというのも一つの方法ではあると感じた。これは、11月～12月頃に行う雪山参加者の訓練の内容によっても変わってくるのではないか。』

4月は新歓期で何かと出費がかさむ時期であり、GWに新歓合宿も行っている部員たちには参加費用が大きな負担になっている。またロープワークやツェルトの使い方は全部員が間違いなく学ぶべきものであり、参加者が限られる雪溪訓練ではなく下界での実施が望ましいのではないか。

<その他>登攀チーム結成について、OBへの計画書提出の山行範囲明文化について、山岳保険について